

沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 82

2019年3月22日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

おじー、おばーも若者も・・・怒！怒！

総合病院での健康診断や歯科医での治療などで2週間、神奈川県内の自宅に戻っていました。3月15日に沖縄に帰り、新基地建設を断念させるまで闘う戦線に復帰したところです。早速3月16日、那覇市の新都心公園で開催された「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り辺野古新基地建設断念を求める3・16県民大会」に参加しました。会場は1万人以上の人びとであふれ熱気のこもった、そしてこの間の政権側の「民意無視」、「工事続行」に対して怒りが爆発しそうなただならぬ雰囲気の中、県民大会は進行しました。いつになく今日の県民大会には右翼の妨害行動が大音響や車のクラクションをかき鳴らすなどやりたい放題で、明らかに騒音防止条例違反、道交法違反が警察・機動隊の目の前で行われているのに、何ら規制、取り締まり、現行犯逮捕しない警察権力に怒りがこみ上げてきます。

そうした妨害にもかかわらず、玉城デニー知事のメッセージを謝花副知事が代読し「辺野古埋め立て反対の民意を尊重し、揺らぐことなく闘い続ける」には会場全体から力のこもった拍手が鳴り響きました。

今日の県民大会の特徴は、登壇者の中で若者の発言に大声で、口笛で賛同する場面であったと思います。簡単に紹介すると、「沖縄の未来は、おじー、おばーと若者でつくりよう」「子どもたちの未来のために心を一つにして頑張ろう」「おじー、おばーがなぜ座り込んでいるのか、なぜ声を上げているのか。誰のために未来のためと行動しているのか若者は考えてほしい」「国が諦めるまで闘う！」などの声上がり、県民投票後の最初の集会は大成功したと確信したところです。

県民投票後、政府は工事を断念するどころかこれ見よがしにシュワブゲートから連日300台余りのダンプが岩や土砂を座り込む我々を蹴散らして搬入しています。安和の琉球セメント栈橋においては貨物船にダンプ600台分の違法な赤土まじりの土砂を運び込んでいます。

また埋め立てようとする海域には新たに軟弱地盤が発見されるなど、専門家は技術的な問題や施工後の地盤沈下などで断念すべきだという声も上がっています。こうしたことから次々と問題が浮上して、辺野古は適地ではないということが今や誰しも思っています。にもかかわらず県内外からの土砂投入をするためにK8護岸工事に着手し、3月25日から辺野古側の海に土砂投入するという。

沖縄県民は、こうした政権側の強行姿勢に、何とかならないものかと不安を膨らませてきましたが、県民大会を成功させまた一段と断念させるまでたたかうという決意を新たにしたのではないかと思います。県外で闘う人々にも「民意は示された」、「土砂投入をやめろ」のボードを高々と掲げた会場を見せてあげたかったとつくづく思います。

闘いの近況を伝えておきたい。

3月18～23日までの週間は辺野古の海へ貨物船で土砂を運び込んでいる安和の琉球セメント工事栈橋ゲート前で「集中行動日」として連日100～200人の仲間が搬入阻止闘争に参加しています。海上においても運搬船にカヌーの仲間がしがみついて抵抗しています。このような闘いで確実にダンプ約300台分の土砂をストップさせる成果をあげています。3月20日には92歳の古堅実吉さん(写真)も参加され、若い人はもとより私も感激しました。沖縄戦、米軍による圧政、島ぐるみ闘争、嘉手納B52墜落、宮森小学校ジェット機墜落事故、少女レイプ事件など戦後74年間はまさに闘いに明け暮れ、今日もまだまだ闘っている姿に尊敬します。



来月4日にはゲート前での座り込みのマドンナと言われる島袋文子さんも90歳を迎えます。本当に沖縄のおじー、おばーの信念はただものではありません。基地建設を断念させるまで、いつまでも元気で達者でいてください。